

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-2-3 高齢者福祉の推進
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	高齢者福祉課長 稲田 勝	電話番号	0852-22-5236
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	新たな共助の仕組みづくり推進事業		
目的	(1) 対象	老人クラブをはじめとする地域で活動する高齢者グループや個人	
	(2) 意図	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。	
事業概要	①市町村老人クラブ連合会助成事業：老人クラブ等の活動を通じ、高齢者の社会参加の促進を図るため、市町村を通じて市町村老人クラブ連合会に補助。 ②老人クラブ等活動推進事業：老人クラブ活動の活性化を図るため、県老人クラブ連合会に対し、推進員設置とその活動に必要な経費を補助。 ③高齢者大学校運営事業：高齢者大学校を適切に運営し、継続的な学習の場を確保するため、県社会福祉協議会に対し、運営に係る経費を補助。 ④健康福祉祭運営事業：県健康福祉祭の開催と全国健康福祉祭への選手派遣を円滑に行うため、県社会福祉協議会に対し、県大会開催や派遣に係る経費を補助。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県内の高齢者を対象に健康づくり活動等を展開する「健康づくり推進員」の養成数（H25年度から開始）	目標値		84.0	104.0	124.0	144.0	のべ人数
		取組目標値						
	式・定義 同上	実績値	64.0	97.0				
		達成率	-	115.5	-	-	-	%
2	指標名 高齢者大学校の入学者数	目標値		180.0	180.0	180.0	180.0	人
		取組目標値						
	式・定義 同上	実績値	125.0	120.0				
		達成率	-	66.7	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	82,152	81,891
うち一般財源 (千円)	41,451	50,800

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○地域社会の中核的な高齢者グループである老人クラブの活動や、地域活動の担い手となる高齢者の育成及び高齢者スポーツ・文化活動に対する支援を行っている。
 ・県内の単位老人クラブ数 1,050クラブ（H28.10.1現在）
 ・県内の単位老人クラブ会員数 52,286人（H28.10.1現在）
 ○高齢者大学校：214人（H29年度学生数）…地域活動の担い手となる人材を育成するための体系的な学習内容となるよう、H26からカリキュラムは大幅に改編した。
 ○健康福祉祭参加者：2,362人（スポーツ）、134人（文化交流）、172人（美術展）…参加者が増加するようチラシの配布等の広報を行っている。（H28年度）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○老人クラブ数及び会員数は減少しているが、健康づくり推進員（介護予防、閉じこもり予防や仲間づくりなどの効果が期待できる地域の高齢者に対する健康づくり活動を推進する実践者）は毎年度養成しており、年々増加している。
 ○高齢者大学校の在学、卒業生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施された。
 ○健康福祉祭や高齢者大学校を契機として、高齢者がスポーツや文化活動、地域貢献活動にいきいきと取り組む姿を広く紹介することで、その気運醸成につながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
 ○老人クラブ数及び会員数は、再結成・加入促進活動が活発に行われてはいるが、年々減少してきている。
 ○高齢者大学校入学者が減少している。
 ○健康福祉祭参加者は、一部の種目、部門で減少傾向にある。

②困っている状況が発生している「原因」
 ○老人クラブ数及び会員数の減少：会員の高齢化、役員、特に会長の引受け手がない（リーダー不足）、「老人クラブ」加入のメリットが提示できていない。

③原因を解消するための「課題」
 ○年々減少してきている老人クラブ数及び会員数に歯止めをかけて、組織力を強化していくには、活動の担い手として期待される若手高齢者に対し、老人クラブの役割・魅力づくりのPRができるかにかかっている。
 ○地域活動の担い手育成という目的を踏まえたうえで、いかにニーズに合った学習内容とするか、また、趣味や職域、地域を超えた仲間ができるという高齢者大学校の魅力、地域活動の意義をいかにPRできるか。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○老人クラブの最大の課題は「老人クラブの魅力向上による加入促進」であり、県老人クラブ連合会の指導の下で各市町村老人クラブ連合会の機能を強化するとともに、老人クラブへの加入促進につながるような方策の実施について検討・支援していく必要がある。そのため、老人クラブの取組の一つである「健康づくり」活動を支援するとともに、地域における支え合い活動を促進する。
 ○高齢者大学校については、カリキュラム改編や同窓ネットワークの活動の成果を検証し、卒業後の地域貢献活動につながるよう、引き続き支援する。また、引き続き、高齢者大学校や健康福祉祭の参加者の活動の様子をホームページ等で紹介して、新たな生きがいづくりの気運醸成に取り組む。